「中央アジア諸国日本研究カンファレンス」

2017 年 2 月 18 日、19 日に東芝国際交流財団後援のもと「中央アジア諸国日本研究カンファレンス」がカザフ国立大学東洋学部棟で行われました。カザフスタンとその近隣諸国で日本・日本語を研究する研究者・学生、および中央アジアを研究対象とする日本の研究者・学生が日頃の研究成果を発表する場として、カザフ国立大学東洋学部極東学科が本カンファレンスを企画・実施しました。カンファレンス開催の目的は、参加者同士の交流によって、当該地域の日本・日本語研究と教育の水準を向上させることにあります。

カンファレンスの開会にあたり、アルファラビ・カザフ国立大学東洋学部 Bayan Zhubatova 学部長、在カザフスタン日本国大使館飯島康雅参事官より挨拶をいただきました。

基調講演では北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの宇山智彦教授と本学中央アジア事務所長の小野正樹教授が講師を務めました。宇山教授のテーマは「世界的文脈の中での日本と中央アジアの関係」、小野教授のテーマは「日本語らしさとわかりやすい日本語」でした。各講演後、聴講者の方から様々な質問が飛び出し、活発なディスカッションが行われました。

初日の研究発表ではキルギス、ウズベキスタン、アスタナからの招聘研究者、本学教員、カザフ国立大学教員が日頃取り組んでいる研究テーマを発表しました。本学ルート・ヴァンバーレン准教授が日本の英語教育について発表しました。またカザフ国立大学東洋学部の Men Dmitory 教授が日本とカザフスタンの外交について研究発表を行い、日本民間外交推進協会（International Friendship Exchange Counsil）の Liaison Officer である Kurmanseit Batyrkhan 氏が Kazkhstan-Japan という組織の活動を紹介しました。その他、招聘研究者としてカザフ国立大学に来ていただいた方々は以下の通りです。

＜キルギス＞
・Vorobeva Galina 氏（漢字教育）
・宗像みなみ日本語専門家（日本語教材における女性の役割）

＜ウズベキスタン＞
・Kurbanova Gulchehra 講師（日本語の複合動詞）
・Turapova Nargiza 講師（日本語とウズベク語の慣用句）

＜アスタナ＞
・Uteuliyeva Gulshat 講師（日本の民主主義）
・Kuanyshbek Zhanna 講師（ユーラシア国立大学における日本語授業）

2 日目はカザフ国立大学と R.B. Suleimenov 東洋学研究所の教員・大学院生が、また筑波大学の大学院生が日本語セクション、カザフ語・ロシア語セクションに分かれ、日本語、日本文化、日本社会、中央アジアの社会、中央アジアの環境問題に関する研究発表を行いました。

今後とも、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスを初めとした中央アジアの日本研究のハブとなる役割を果たしていきたいと考えています。

（文責　二ノ宮崇司、Shadayeva Madina）